



なかま

発行 交野市ボランティアグループ連絡会

(交野市ボランティアセンター内)

V連絡会 E-mail vltr94@leto.eonet.ne.jp

Vセンター E-mail katabora1994@katano-shakyo.com

ボランティアを
紹介してほしい人
ボランティア活動を
はじめたい人
ボランティアセンターに
お問い合わせください
(Tel894-3737)
(Fax891-3340)

みんなでフェスタを盛り上げよう!!

11月10日(日) 10時~15時



昨年の植木市ブースと本部バザー周辺の人だかり

- 本部バザー(日用品、雑貨他)
- 古本市(小説・エッセイ・漫画)
- 植木市(植木・草花他)
- 糸ぐるま(手作り品バザー等)

ふれあい広場出店ブース

第28回健康福祉フェスティバルは、11月10日(日)ゆうゆうセンターで午前10時から開催されます。ボランティアグループ連絡会もイベントへの参加を通して、ボランティアグループ連絡会の活動を広く来場者にPRしています。

フェスティバルの盛り上げと、ボランティア活動への関心を高めるために、各グループ員の積極的な参加と、ご近所の住民への声かけもお願いします。

◎運動療法室

世代間交流センター3階(屋内)

高齢者疑似体験では

- 福祉体験(高齢者疑似体験)、及びボランティアグループ活動パネルの展示をします
- ◎団体共用室1
 - 点字・点訳体験コーナー
 - 「虹の会」
 - 手作りおもちゃコーナー
 - 「玉手箱」
- ◎団体共用室2
 - 対面朗読体験コーナー
 - 「あい」
 - 介護衣料展示コーナー
 - 「糸ぐるま」

身体の変化を知ることが高齢者や障がい者に配慮したやさしい気持ちを育みます。「歳をとりたくない」「目が見えないことは怖い」ということではなく、「自分だったらどんなふうに対応されたいだろうか」「自分は何かができるか」を考える機会です。身体の機能が低下するとどのような形で現われるのかを教材を使って体験します。

11月は児童虐待防止推進月間です

児童虐待は社会全体で解決すべき問題です。身体的虐待/性的虐待/ネグレクト/心理的虐待など、子どもを虐待から守るためにあなたのお電話で救われる子どもがいます。児童虐待かもと思ったらすぐにお電話を

児童相談所 全国共通ダイヤル 189

未来へと命を繋ぐ 189

ボランティア インタビュー79 芝山香さん(さつき・あい)



ボランティアを始められたきっかけは

交野市の広報に載っていた「手話講習会」開催を見て、軽い気持ちで受けてみたのがきっかけです。講習会最終日に「さつき」へのお誘いがあったので、入って続けてみようという気持ちになりました。

さつきの活動を通じ、朗読グループ「あい」を知り、3年前に朗読講座を受講しました。活動は大変ですが、今まで経験したことのないことばかりで、楽しいです。

ボランティアを始めて感じたことは

手話の講習会を受けて、はじめて手話通訳という仕事があることを知りました。手話通訳を

目指せたらいいなと思っていました。上を目指して、続けていくことが大切だと感じています。

趣味は何ですか

以前はDIY(何かを作ったり、修理したり、装飾したりすること)をしていましたが、最近仕事もしていますし、土日もバタバタしていてなかなか、できていません。少し前から亀を飼っていて、名前をつけて可愛がっています。日々癒やされています。

今後はどうしていきたいですか

色々と行事も重なったりして、全部やることはできないので自分ができるだけなら、みんなに頼りながら長く続けたいです。今自分がやっていることで一杯ですが、しんどくなったら少し休んでまた復帰してなど、とにかく細々でも続けるのが目標です。

リーダー会議(10月29日)

☆会長挨拶

・台風被害と兵庫県の被災地支援に関わるボランティアへの交通費助成の取り組み(3頁参照)

・大阪府市町村ボランティア連絡会 河北ブロック交流会(門真市V連担当) 報告(2頁参照)

☆連絡会より

・第28回健康福祉フェスティバルに関して、30日の実行委員会で最終の詰めをする。(1頁参照)

・ボランティア講座について、本日参加者を締め切りましたが、再度グループ員に呼びかけてください。(2頁参照)

・秋のボランティアセンター大掃除について(3頁参照)

・交野市ボランティアグループ連絡会のベスト50着ができました。

・ゆうゆうバスを巡る問題について、話し合いました。

☆Vセンターから

・赤い羽根共同募金について

・印刷機の使用に関して

・台風15・19号、豪雨災害等の支援箱について一括して「台風被害募金」をVセンターに設置しました。

☆各グループから(省略)

後	編
記	集

体育の日が
来年は7月24日
スポーツの日

7月8月は五輪に伴うイレギュラー発生

日	月	火	水	木	金	土
19	20	21	22	23	24	25
				海の日	スポーツの日	
				五輪開会式		
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
五輪閉会式	山の日					

10月は「体育の日」があるため、運動会をこの時期に行う学校が多いようですが、台風・大雨の影響で順延になる学校も少なからずありました。そんな「体育の日」が、今年で終わりになることをみなさんご存じでしょうか。「体育の日」は「スポーツの日」に改められます。理由は、スポーツは体育より広い意味を持ち、自発的に楽しむという意味を含むからです。また、来年は「海の日」が7月23日に、「スポーツの日」がオリンピック開会式の7月24日に移動しての4連休となります。10月の祝日はありませんので、お気をつけください。(モツ鍋)

大阪府市町村ボランティア連絡会

河北ブロック交流会が門真市で開催

10月18日(金)、門真市保健福祉センターで河北ブロック交流会(今年は門真市が担当)が開催されました。

門真市に本社を置くタイガー魔法瓶株式会社のソリューショングループ商品企画チームの講演が企画され、同社の「世界中に幸せな団らんを広める」というコンセプトのもと、商品開発に取り組みられているなかで、「がまんしない健康を」ということで開発された2商品の紹介がありました。1つ目は、老化に伴い食べ物が飲み込みにくくなることに対し、「いつまでも噛んで食べ続けられる喜びを」と考えられた炊飯器(商品名「さらっとご飯」)です。2つ目は16万人いると言われる小麦アレルギーに対し、「みんなと一緒においしい」を目指した米粉100%の「無添加グルテンフリーパン」(商品名IHホームベーカリー)です。

その他、内閣府が主導する「災害時の食と栄養(JOVDA)」と



調理室で「さらっと御飯」と「米粉パン」の試食

いう官民学連携プロジェクトにも調理機器メーカーとして参画していることが報告されました。講演会後の交流会では、各市の参加者が8グループに分かれ、さらっとご飯と米粉パンの試食、そして自己紹介や各市の活動状況などの意見交換をしました。また、「SA門真の会」の皆さんの指導のもと歌体操で身体をほぐした後は、お楽しみ抽選会もあり、短い時間でしたが、共にボランティアに関わる仲間と出会い、楽しく交流ができました。

いつでも、どこでも
だれでも、みぢかなところから

ボランティア講座
活動があなたの元気の源!
～出会い 気づき 学びの宝庫～

「私にもできるかも!」と思ったら、
ボランティアの始めどき

11月30日(土)午前10時～12時

講師 大阪ボランティア協会
常務理事・事務局長 永井 美佳氏
場所 ゆうゆうセンター4階 多目的ホール
対象 ボランティアに関心のある人
定員 80人
参加費 無料
主催 交野市ボランティアグループ連絡会
申込み 交野市ボランティアセンター
TEL894-3737
FAX891-3340
※手話・要約筆記が必要な場合は**11月15日(金)**までにお申し込みください。

11月の講座 ご案内で～す

第2弾「お互いさん」の交野のまちづくり講座

わたしにもできる
お出かけサポート

ちょっとしたお出かけのサポートを行なうための介助術や活動についてのお話しです。

日時 11月29日(金)午後1時30分～3時30分

場所 ゆうゆうセンター2階 体験学習室・お年寄り健康教室

定員 70名(事前予約制)
ご予約は11月15日(金)までに
社会福祉法人 交野市社会福祉協議会
交野市天野が原町5-5-1

担当: 舟山・南部
TEL 072-895-1185
FAX 072-895-1192

利用者さんと「交流会」 朗読グループ「あい」



10月19日(土)、ゆうゆうセンター4階多目的ホールで、利用者さんと朗読グループ「あい」との交流会を行いました。交流会はお互いに交流を深めること、そして音訳CDに対する利用者さんの声を聞くことに務めています。午前は、相互の自己紹介、お弁当を頂きながらの歓談です。その後は利用者さんによるハーモニカの演奏、秋の歌に聴き惚れ、昔話「ねずみのお経」で笑い、ナゾナゾで頭の体操、川柳の朗読、歌遊びなど楽しいひと時を過ごしました。

「あい」として大イベントの交流会、来年の再会を約してお別れしました。(「あい」・M)

災害被災地支援で兵庫県が交通費を助成

この秋、関東・東北地方を襲った台風15号・19号、さらには25日の集中豪雨で、複数回被災に見舞われる地域が出るなど想像を絶する甚大な被害が発生している。被災地支援に向けて、各地から市町村職員の派遣、ボランティアの活動が始まったところだ。そんな中で兵庫県が自然災害の被災地で活動をするボランティアを支援するため、交通費を助成する新制度が、今

回の台風19号で初適用されることになった。当面は県が支援を担う長野県での活動が対象で、1団体につき20万円を補助する。阪神・淡路大震災で多くの支援を受けた兵庫県から、ボランティアを公的に支える全国初の制度が動き出す。兵庫県内を拠点とし、5人以上の団体、グループに助成し、来年3月末まで50団体程度の利用を想定しており、活動場所としては当面、長

遠隔地でのボランティア活動には、交通費がネックになっていることもあって、今回の軽減策が国レベルで同様の制度が広がれば、各地で被災地支援を続けるボランティア団体にとっても人を送りやすくなること歓迎する声が上がっている。3度も被災に見舞われた千葉県ではボランティア支援がまだまだ不足しているという。私も被災地まで出向く体力がないが、いま自分ができる支援をしたい。(T記)



野県の各市町村が対象になるという。

食卓から秋刀魚が消える?

秋の食卓に欠かせないサンマの漁獲量が1950年代をピークに減少している。初サンマのセリが行なわれる根室市花咲港での水揚げは17ト、例年だと100トが水揚げされるというから大変な減りようである。値段も70年代には1匹70円だったが、今年は300円台になるとか、大衆魚から高級魚に変わってしまった。そもそもサンマが激減した理由は3つあるらしい。

1つは、サンマの回遊ルートが変化、道東から三陸沖へ流れる親潮にのって南下するルート上(北海道の東)に温水塊のエリアが大きくなり、サンマが日本近海から遠ざかっている。

2つは、中国や台湾など外国の漁獲量が増えている。それは日本の排他的経済水域の外の公海上で冷凍設備のある大型船で操業しているため、日本の近海を通らなくなったサンマを先取りされるから。(日本のサンマ漁は日帰り操業のため大型漁船を持っていない)

3つは、外国の参入もあってサンマの資源量が減ってきたことがある。

サンマは日本固有の資源ではなく、国際的な共有資源として、資源の存続を考えることが明白だと言えよう。(ABC)

ボランティアセンター 秋の大掃除

11月18日(月)10時から(雨天決行)

☆当番グループ 「陽だまり、かざぐるま、アリス、さつき、星の会、虹の会」
☆ボランティアセンター登録グループ及び個人登録ボランティアのみなさんのご協力もお願いします